

## 平成22年度「土砂災害防止月間」実施概要

### 1 目的

近年頻発する土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害による人命、財産の被害の現状にかんがみ、土砂災害防止に対する国民の理解と関心を深めるとともに、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制整備の促進等の運動を強力に推進し、土砂災害による人命、財産の被害の防止に資することを目的とする。

### 2 期間

平成22年6月1日(火)から6月30日(水)まで

### 3 主催

国土交通省、都道府県

### 4 後援

内閣府、消防庁、文部科学省、厚生労働省、林野庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本放送協会、(社)日本新聞協会、(社)日本民間放送連盟、(社)全国治水砂防協会、(財)砂防・地すべり技術センター、(財)砂防フロンティア整備推進機構、NPO法人砂防広報センター、全国地すべりがけ崩れ対策協議会、(社)斜面防災対策技術協会、(財)建設技術研究所、(社)建設広報協議会、砂防ボランティア全国連絡協議会

### 5 運動のテーマ

みんなで防ごう土砂災害

### 6 実施内容

- 1) 土砂災害防止「全国の集い」の開催(6/9 広島県広島市)
- 2) 土砂災害防止功労者の表彰
- 3) 土砂災害防止に関する絵画・作文の募集、表彰
- 4) がけ崩れ防災週間の実施(6/1～6/7)
- 5) 第5回「土砂災害・全国統一防災訓練」の実施(6/6)
- 6) 土砂災害警戒区域等、土砂災害危険箇所及び避難場所・避難路等の周知・点検の実施
- 7) 災害時要援護者の把握及び説明会等の開催
- 8) 砂防設備等の点検及び砂防指定地等の周知・点検の実施
- 9) 教育関係者、小・中学生等を対象とした講習会・見学会等の開催
- 10) 土砂災害に関する広報活動の実施



平成21年度 土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文  
「絵画」中学生の部 田嶋秀真

「破壊」  
福島県福島市立福島第一中学校一年 森谷栞子

# 土砂災害防止月間ポスター

## 「生きていることに感謝」

平成21年度 土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文  
「作文」中学生の部 田嶋秀真

一九九六年十一月十五日。身長、五〇センチ、体重、二八〇グラムの元気が産まれました。その子の名前は山崎聖南。私です。私が産まれて、約半年たった夏、七月十日、私が産まれている出羽市針原で、土石流災害が起きました。夜中に起こった災害だったため、私なら家族を含め、みんなその頃寝ていました。

そのとき土石流で流された方々のなかには、自分の命を守るために、近くに浮いているベントや、たなみなにつかまって、水の中からはい上がって助かった方もいます。そして、同じ家の中に寝ていても、寝ている場所、部屋によって、助かった人、助からなかった方がいたようです。自分のとなりで子供が寝ていて、自分は助かったが、その子は助からなかったというこどもであったそうです。私はこのことを父、母に聞いたとき、自分の子供をじくしてしまっただ方、家族の方をじくしてしまっただ方がかわいそうだなって思いました。

その土石流災害のことは、新聞の記事にもありました。この土石流災害で落ちてきた石の大きさは私の家の大きさほどのものであったとわかりました。この土石流災害での死者は十一名と聞き、なんてたくさんの方がじくったのだと思いました。

針原には、この災害でじくった方々のための慰霊碑公園があります。そこには、石碑があり、私の父が書いた短歌がはってあります。

「針原の みかんの里に ふたたびの 花を咲かすと みな誓いけり。」

という歌です。十三年たった今、針原には本当にみかんの花がきれいに咲いています。この歌を書いた父やみんなの願いがしっかりと神様に届いたのだらうと思います。

でも生きているのであれば、どんな生活をしていけるのだらう、どんな方にならざるののだらう、ということでも、その赤ちゃんが生まれてから同じ中学校で、友達になつていけるのかなど私は思います。

私の家族は、祖父も、祖母も、父も、母も私も全員が今でも生きています。私のこれまでの十三年間の中で、祖父がすいこいなど思ったことがたくさんあります。その中で一番すいこいなど思ったことは、土石流災害のときに、他の方の命を救ったということです。だれかに命を救われた方、自分でしつかり命を守った方、今でも生きていらっしゃる方には、じくった方々の分まで、命を大切にして、これからも長く生きてもらいたい、と、あためて思っています。

毎年、七月十日には、慰霊碑公園で、慰霊祭があります。その式では、お花を供えたり、お願を上げたりし、お墓参りに似ています。でも私は、中学生なので、その式には学校がありません。小さい頃にはその式に参加したことはありません。でも、大人になつた、七月十日には毎年しつかり参加して、お花を供えたいと思っています。

この土石流災害が起こったとき、出羽市針原の自治会長さんやつた古川守さんは、今年、病気のため亡くなってしまいました。古川さんは、土石流災害のときに、自分の家も被害を受けながら、じくった方や被害を受けた方々のためにがんばられて、復旧に全力を尽くされた方です。私はこの話を新聞の切りぬきを見た、祖父など聞いて、古川さんは、自治会のためにがんばっていただんだと思います。古川さんやみんなのがんばりや協力があった、針原はどのように復旧できたのだと思います。

私は、今生きていられることを心からありがたいと思います。まずは、私を産んでくれた母に感謝し、祖母、父、母、家族に感謝してきます。そして、これからはその感謝の心を忘れずに生きていこうと思います。お父さん、お母さん、家族のみんな、私が大人になつても、ずっと私を見守っていて下さい。

私はこれからもじくった方々の分まで精一杯生きていきます。

**土砂災害防止月間**  
6/1→30  
がけ崩れ防災週間 6/1→7

土砂災害に関する情報はこちらから  
国土交通省砂防部のホームページ  
<http://www.mlit.go.jp/river/sabo/>

- 主催** 国土交通省・都道府県
- 後援** 内閣府、消防庁、文部科学省、厚生労働省、林野庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本放送協会、(社)日本新聞協会、(社)日本民間放送連盟、(社)全国治水砂防協会、(財)砂防・地すべり技術センター、(財)砂防ボランティア整備推進機構、(NPO)砂防広報センター、全国地すべりがけ崩れ対策協議会、(社)斜面防災対策技術協会、(財)建設技術研究所、(社)建設広報協議会、砂防ボランティア全国連絡協議会